

老年看護学

【科目構成とねらい】

成長発達の最終段階である老年期は、人としての英知を統合し、いずれは穏やかに幸せな死を迎えられるべき段階である。長い人生経験と知恵、個人の生き方・価値観を尊重し、個別な存在として理解する必要がある。近年、高齢者人口の割合は急速に進行し、老年期は65歳～100歳代と幅広い年齢層である。その間には、健康な時があれば、疾病を抱え治療が必要な時もある。

また、老いに加えて障害を伴うこともまれではない。そして、治療の場である病院や療養のための施設、住み慣れた場である居宅等、高齢者の生活の場は多岐にわたる。今後、更なる高齢社会の進展に伴い、医療の場から施設・在宅などの生活の場へのスムーズな移行を図る必要がある。入院時から退院後の生活を視野に入れた看護の提供や、利用可能な保健医療福祉サービスの多職種間の連携が強く望まれている。

看護においては、一人一人の人生を念頭に置きながら、多様な健康レベルと場の広がりに対応できる能力、その人の持てる力を十分に発揮し、QOLの維持・向上を目指した個別性のある看護を実践できる能力等が求められる。このことから、高齢者に起こりやすい変化を理解し、幅広い観察力やアセスメント力等、科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断能力を養う。そして、時代の変化や社会の動向に合わせて高齢者本人・家族のニーズを基盤としたその人らしく生きるための支援ができるように、それらに関する基礎的な知識・技術を学習する。

科目については、老年期にある人の「その人らしく生きる」を支えるためには、日々の生活、暮らしを理解することが必要であると考え、「高齢者の暮らすを支える看護」について学べる内容を精選した。

以上のことより、高齢者がどのような状況(時・場所・価値観等)においても暮らし続けることを支援できるように、学習内容を「老年看護学概論」「高齢者の生活機能を整える看護」「高齢者の生きるを支える看護」「認知機能が低下した高齢者の暮らすを支える看護」の4つの科目に整理した。

「老年看護学概論」

高齢者を理解するために、加齢変化の特徴や加齢に伴う生活の変化を学び、高齢者の多様性を理解し、老年看護についての関心を高める内容とする。

「高齢者の生活機能を整える看護」

高齢者に特有の加齢変化によって起こりやすい心身の変化や生活への影響の理解を深める。高齢者の生活機能を整える看護の基本を学習する内容とする。

「高齢者の生きるを支える看護」

高齢者の健康問題は複雑化・長期化・重症化しやすい。治療に応じた看護、疾病予防・健康維持に関連する高齢者・家族の支援を含む療養生活の場における看護を学ぶ。

また、老年期にある全ての人が人生の終焉までその人らしく生きることを支援する看護を学ぶ内容とする。

「認知機能が低下した高齢者の暮らすを支える看護」

認知機能が低下した高齢者の取り巻く環境や退院支援、地域連携等の内容を学ぶ。そして、急増する認知症高齢者が地域で暮らし続けるために予防からエンドオブライフケアまで、治療の場から療養生活の場まで、と幅広い視野をもって看護を考えられる内容とする。

【目的】

老年期にある人と家族及び支える人々を理解し、その人らしく生きるための看護を実践できる基礎的能力を養う。

【目標】

1. 老年期にある人の特徴を理解し、老年看護の機能と役割を理解する。
2. 高齢者の特徴を踏まえた生活機能を整える看護を理解する。
3. 健康問題が高齢者や家族に及ぼす影響を理解し、高齢者の健康を支える看護を理解する。
4. 高齢者が人生の終焉まで地域でその人らしく暮らし続けることを支える看護を理解する。

【構成および計画】

< 講義 >

科目	単位	履修時期		
		1年次	2年次	3年次
老年看護学概論	1	○		
高齢者の生活機能を整える看護	1	○		
高齢者の生きるを支える看護	1		○	
認知機能が低下した高齢者の暮らすを支える看護	1		○	

授業計画

科目名	老年看護学概論		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 老年期にある人のその人らしい健康と生活について理解する。 2. 高齢者と家族のその人らしい健康と生活を支える保健・医療・福祉の現状及び課題を理解する。 3. 高齢社会における老年看護の役割を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 *実務経験のある教員		
第 1 回	高齢者の理解と健康	加齢と老化 加齢に伴う身体的・精神的・社会的機能の変化の特徴 ①	講義	専任教員 *		
第 2 回		加齢に伴う身体的・精神的・社会的機能の変化の特徴 ②	講義 演習	専任教員 *		
第 3 回		加齢に伴う変化と生活への影響 ① 高齢者の日常生活の疑似体験	校内 実習	専任教員 *		
第 4 回		加齢に伴う変化と生活への影響 ② 高齢者の日常生活の疑似体験	校内 実習	専任教員 *		
第 5 回		高齢者にとっての健康 高齢者の健康の目標と健康問題 健康の保持増進のための取り組み	講義 演習	専任教員 *		
第 6 回		地域高齢者とのコミュニケーション	演習	専任教員 *		
第 7 回		健康指標からみた高齢者の理解 高齢化の要因と特徴	講義	専任教員 *		
第 8 回	老年看護の基本的な考え方	老年看護の定義 老年看護の役割と特徴	講義	専任教員 *		
第 9 回		老年看護に関わる理論・概念 老年看護に携わる者の責務	講義	専任教員 *		
第 10 回	高齢者と家族の生活を支えるための支援	高齢者の暮らし 高齢者と家族機能の変化 高齢者の生活を支える施策 多様な生活の場とリロケーション	講義	専任教員 *		
第 11 回		高齢者が地域で「暮らす」とは 地域の高齢者・家族の暮らしを支えるための施策、取り組み	講義	専任教員 *		
第 12 回	高齢者の権利擁護	高齢社会の権利擁護と倫理的課題 権利擁護のための制度	講義	専任教員 *		
第 13 回	高齢者を取り巻く社会の現状と課題	加齢に伴う変化と生活への影響 高齢者を取り巻く社会環境	演習	専任教員 *		
第 14 回		高齢者の生活を取り巻く社会環境 発表	講義 演習	専任教員 *		
第 15 回	評価					
評価方法		筆記				

授業計画

科目名	高齢者の生活機能を整える看護		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 加齢変化によって起こりやすい心身の変化を踏まえた生活への影響を理解する。 2. 高齢者の生活機能を整える看護の基本を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	高齢者の生活機能アセスメント	高齢者の身体的健康のアセスメント 生活の自立状態のアセスメント 心理・社会的健康のアセスメント	講義	専任教員*		
第 2 回	高齢者の生活機能を整える看護	高齢者のコミュニケーションの特徴 高齢者のコミュニケーションに影響する要因 高齢者とのコミュニケーション方法	講義	専任教員*		
第 3 回		高齢者の生活リズムを調整する意義 高齢者に特徴的な生活リズムのアセスメント 生活リズムを整える看護	講義	専任教員*		
第 4 回		歩行・移動動作のアセスメントと援助 高齢者の転倒・転落の影響、要因とその予防 活動意欲を高める看護	講義	専任教員*		
第 5 回		高齢者に特徴的な食生活のアセスメント 高齢者の食生活への看護 嚥下機能が低下している高齢者の看護 脱水症状のある高齢者の看護	講義	専任教員*		
第 6 回		高齢者の排泄の特徴と QOL 排泄能力の変化に応じた看護	講義	専任教員*		
第 7 回		高齢者の皮膚の特徴と清潔に関する健康課題 高齢者の清潔行為、更衣動作のアセスメント 高齢者の清潔に向けた看護	講義	専任教員*		
第 8 回		臥床傾向にある 高齢者の日常生活機能を整える 看護	Case learning 1 失禁のある高齢者の陰部洗浄とオムツ交換 臥床傾向にある高齢者に起こりやすい変化と 生活への影響 援助計画の立案	演習	専任教員*	
第 9 回	Case learning 1 臥床傾向にある高齢者の日常生活を整える援助 ①		校内 実習	専任教員*		
第 10 回	Case learning 1 臥床傾向にある高齢者の日常生活を整える援助 ②		校内 実習	専任教員*		
第 11 回	Case learning 2 麻痺のある高齢者の排泄自立に向けた援助 臥床傾向にあった高齢者の日常生活動作や生 きる意欲を向上させる援助計画の立案		演習	専任教員*		
第 12 回	Case learning 2 臥床傾向にあった高齢者の日常生活動作や生 きる意欲を向上させる援助 ①		校内 実習	専任教員*		
第 13 回	Case learning 2 臥床傾向にあった高齢者の日常生活動作や生 きる意欲を向上させる援助 ②		校内 実習	専任教員*		
第 14 回	Case learning 2 臥床傾向にあった高齢者の日常生活動作や生 きる意欲を向上させる援助後の評価・修正		講義 演習	専任教員*		
第 15 回	評価					
評価方法		筆記				

授業計画

科目名	高齢者の生きるを支える看護		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 高齢者の健康障害の特徴と看護を理解する。 2. 生活の場の特徴を踏まえ高齢者とその家族への看護を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	高齢者の健康障 害の特徴と看護	老化の要因と原因 老年病と老年症候群 老年病の特徴と看護上の問題	講義	外部講師*		
第 2 回		高齢者に特徴的な症状と看護 うつ状態と生活への影響と看護	講義	専任教員*		
第 3 回		褥瘡の評価と処置	講義	外部講師* (WOC)		
第 4 回	多様な生活の場 での高齢者と家 族の看護	高齢者の生活の場の特徴と看護 災害時における高齢者のリスク 高齢者に多い感染症の特徴	講義	専任教員*		
第 5 回		加齢に伴う薬物動態と薬力学の変化 高齢者の薬物療法時の特徴 薬物療法を受ける高齢者への援助とリスクマネ ジメント	講義	専任教員*		
第 6 回	様々な受療状況 に応じた高齢者 の看護	Case learning 1 パーキンソン病の高齢者とそ の家族の生活を支える看護 ①	講義 演習	専任教員*		
第 7 回		Case learning 1 パーキンソン病の高齢者とそ の家族の生活を支える看護 ②	講義 演習	専任教員*		
第 8 回		Case learning 1 パーキンソン病の高齢者とそ の家族の生活を支える看護 ③	講義 演習	専任教員*		
第 9 回		入院時、退院時の看護 外来受診時、検査時の看護	講義	専任教員*		
第 10 回		高齢者リハビリテーションの意義と特徴 インフォームド・コオペレーションに基づく個 別リハビリテーション 健康レベルに応じたリハビリテーション	講義	専任教員*		
第 11 回	エンドオブライ フケア	終末期における高齢者の特徴 高齢者の死に関わる権利擁護 臨死期のアセスメントと看護	講義	外部講師*		
第 12 回	様々な受療状況 に応じた高齢者 の看護	手術を受ける高齢者の看護	講義	専任教員*		
第 13 回		Case learning 2 骨粗鬆症・大腿骨頸部骨折患者 の日常生活行動の自立、生活機能の維持・拡大に 向けた看護 ①	講義 演習	専任教員*		
第 14 回		Case learning 2 骨粗鬆症・大腿骨頸部骨折患者 の日常生活行動の自立、生活機能の維持・拡大に 向けた看護 ②	講義 演習	専任教員*		
第 15 回	評価					
評価方法		筆記				

授業計画

科目名	認知機能が低下した高齢者の暮らすを支える看護		単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	2 年次
科目 目標	認知機能が低下した高齢者がその人らしく暮らし続けるための支援について理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	認知機能が低下した高齢者の理解	加齢による認知症の病態と要因 BPSD と生活への影響 軽度認知障害 (MCI)	講義	外部講師*		
第 2 回	認知機能が低下した高齢者を取り巻く環境	認知症の動向と制度 (変遷含む) 認知症に関する社会資源	講義	専任教員*		
第 3 回		認知症の人の生活・療養環境づくり 認知症の人にとっての環境の意味 意思決定支援	講義 演習	専任教員*		
第 4 回	認知機能が低下した高齢者への看護	認知症高齢者に対する基本姿勢 認知症高齢者とのコミュニケーション 生活障害への援助 行動・心理症状 (BPSD) の予防と対応	講義	専任教員*		
第 5 回	認知機能が低下した高齢者への看護	認知症看護における倫理的課題 権利擁護 退院調整・退院支援 家族への支援	演習	専任教員*		
第 6 回		Case learning 1 認知症のある高齢者の退院支援 ①	演習	専任教員*		
第 7 回		Case learning 1 認知症のある高齢者の退院支援 ②	演習	専任教員*		
第 8 回	評価					
評価方法		筆記・レポート				